

氏名	買原彰彦
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博乙第3278号
学位授与の日付	平成10年12月31日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)
学位論文題目	SOLUBLE ICAM-1 AND NATURAL KILLER CELL ACTIVITY IN GASTRIC CANCER PATIENTS (胃癌患者の可溶性ICAM-1と細胞障害活性)
論文審査委員	教授 中山 睿一 教授 清水 信義 教授 赤木 忠厚

論文審査結果の要旨

胃癌患者のsICAM-1値を測定するとともに、患者血清を培養液として用いてsICAM-1、抗ICAM-1抗体がNK活性に及ぼす影響を検討した。またマウスを用いて抗ICAM-1抗体処置の有無によるcolon 26の肝転移数について検討した。進行胃癌患者ではsICAM-1値が有意に高値であり、患者血清を培養液としてNK活性を測定すると健常人血清では増強され、進行胃癌患者では抑制された。また抗ICAM-1抗体にて患者血清を処置すると0-5.0 $\mu\text{g/ml}$ ではNK活性に変化があまりなかったが10 $\mu\text{g/ml}$ にてNK活性は著明に低下した。以上よりsICAM-1は免疫抑制に働き、抗ICAM-1抗体が低濃度の時はsICAM-1と抗ICAM-1抗体が反応するため互いに中和されNK活性に変化がなく、抗ICAM-1抗体が高濃度では標的細胞上のICAM-1をブロックしNK活性が低下したと考えられる。またマウスの転移実験にてもcolon 26細胞表面上のICAM-1を抗ICAM-1抗体にてブロックすることにより転移数が著明に増加したと考えられる。

学位論文内容の要旨

本研究は、可溶性細胞接着因子ICAM-1 (sICAM-1) の胃癌患者のNK細胞活性に及ぼす効果を検討したものである。その結果、進行性胃癌患者血清中ではsICAM-1値が有意に高く、またsICAM-1によるNK活性の抑制が示唆された。本知見は、胃癌患者の抗腫瘍免疫能を考慮する上で重要な知見であり、価値ある業績であると認める。よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。